
しんのすけ戦記ACE ～ゼロから始まる物語～

デネブキャンディー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

しんのすけ戦記ACE ～ゼロから始まる物語～

【Nコード】

N0954T

【作者名】

デネブキャンディー

【あらすじ】

イレギュラーハンターゼロ、様々な世界を往き、多くの仲間達と共に、その先に何を見るのか？
そして彼は、過去からの因縁を断ち切り、かつての親友を助けられるのか？

戦え、ゼロ！平和が訪れるその日まで！

連載再開！

第零話 過去の虚像（前書き）

これはAAA氏制作の二次創作フリーゲーム「のび太戦記ACE」とクレヨンしんちゃん、そしてロックマンXの二次創作作品です

第零話 過去の虚像

「…………父ちゃん？」

「…………母ちゃん？」

「…………みんな……？」

とある公園、対峙する赤と青……二人の少年、周囲に横たわる家族や友達……

…………そこは、地獄だった……

「……………なんで？」

赤の少年は青の少年に問う

「……………なんでなの……？」

返事は帰らず、なおも赤の少年は問い続ける

「……………なんでだよ………！」

そして赤の少年は、青の少年の名を呼んだ……

「なんでだよ……！」

風間君！！

しんのすけ戦記ACE
～ゼロから始まる物語～

.....

「.....夢か.....」

時は30XX年、イレギュラーハンター本部にある寮の一部屋
ベッドで寝ていた人物はそう独り言を言った

「.....いつの間にか寝てしまったのか.....」

その人物.....長く整った金髪に、赤いアーマーを着込んだ青年は再

び独り言を言う

「……………昔の夢か……………」

P P P . . . P P P . . .

「ん？」

部屋の通信機が呼び出し音を鳴らす。青年はそれを手に取り通話ボタンを押す

『……………こちらエアリス。ゼロ、聞こえる？』

「エアリスか……………何か用か？」

それは同僚のオペレーターからだった

「エアリス」と名乗ったその人物は話を続ける

『ええ…イレギュラーが現れたの。すぐに司令室に来てくれる？詳しい事は司令官から伝えられるわ』

「了解、直ちに司令室に向かう」

そう言うところ「ゼロ」と呼ばれた青年は通信を切る

そして部屋を出ようとするが、ドアの前で立ち止まる

「……………風間……………か」

それだけ言つと、青年は部屋を出ていった…

その脳裏に、遠い過去の忌まわしい記憶を過りながら………

誰もいなくなった部屋のデスクの上、そこにある写真立てには、とある家族の写真が大切に飾ってあった……

第零話 過去の虚像（後書き）

次回

「イレギュラーハンターゼロ」

そして、全てがゼロになる…

・序章 イレギュラーハンターゼロ - (前書き)

序章のキャラクター紹介です

・序章 イレギュラーハンターゼロ・

・イレギュラーハンター・

ゼロ

特A級のイレギュラーハンターにして、かつて嵐を呼ぶ園児として活躍した野原しんのすけの未来の姿

とある事件で全身に重症を負い、とある科学者によってレプリロイドに改造された過去を持つ

かつてのおバカで天真爛漫な性格は既にその面影を失い、迷いも無く目の前の敵を叩きのめす武人になつたが、強い正義感と優しさは昔と変わらないままでいる

またその達人級の剣の腕は変わっておらず、専用武器ゼットセイバーを手にする事によりまさに「鬼に金棒」と呼べる力を発揮する

かつての親友である風間トオルとはある事件を境に、互いを憎しみ合う関係へと一変してしまった

エアリス

イレギュラーハンター本部に所属するオペレーター

主にエックス、ゼロ、アクセルのミッションのサポートをしているオペレーターとしての腕はかなりのもので、ゼロら三人にとって信

頼できるパートナーでもある

・イレギュラー・

シグマ

かつてイレギュラーハンターに所属し、元第17部隊隊長であった
しかしある時を境にイレギュラーになってしまい、他のイレギュラ
ーを引き連れ大規模な反乱を起こす

しかしゼロとエックスの活躍により反乱は鎮圧、シグマもエックス
によって破壊された

が、その後も幾度となく復活し反乱を起こしており、その度にゼロ
達と激闘を繰り広げている

今回もシグマが暗躍しているようだが…？

第巻話 イレギュラーハンターゼロ（前書き）

今回はロックマンXメインです。

- あらすじ的な -

遠い昔の忌まわしい記憶の夢から覚めたゼロは、エアリスからイレギュラーの出現を報告される。

ゼロに与えられたミッション…それは、とある廃墟に現れたイレギュラーの殲滅であった。

そしてゼロは、廃墟に向かうべく北B地区に行くのであった…

第巻話 イレギュラーハンターゼロ

- 北B地区

「イレギュラーによる被害状況は？」

ゼロがアームパーツにとり付けられた通信機に向かって話し掛ける
あの後司令室に行きミッションを受け、この北B地区に来たのだ

『イレギュラーは集団を組んで、廃墟内に立てこもっているみたいよ。今は対した被害は無いみたいだけれど、それも時間の問題ね。それと……』

通信機からエアリスの声が被害状況を述べ、何かを言い掛ける

「……なんだ？」

『……どうやらそのイレギュラー達を指揮しているのは、あの「シグマ」みたいなものよ』

「なんだと!？」

ゼロはその名前を聞いて驚愕する

シグマ……ゼロとその仲間達の前に幾度となく現われる宿敵である
彼は今までも何度も姿を変えて、自分達の前に立ちはだかつてきたのだ……

そのシグマが、再び現れたのだ

「……チツ…相変わらずしぶとい奴だ。……それで、シグマもイレギュラー共と一緒に立てこもっているのか？」

『ええ……よかったら、「エックス」と「アクセル」も向かわせるけれど？』

エアリスはゼロの親友である「エックス」、後輩である「アクセル」を援軍に向かわせるか聞く

「いや、オレ一人で大丈夫だ。アイツらの手を煩わせるまでもない」しかしゼロはそれを拒否する。

「……それに、奴はオレが破壊する。エックスのためにもな」

アイツがもう悲しまない様にな…
ゼロはそう心の中で言葉を続けた

『………わかったわ。それじゃあ、また何かあれば連絡して。こっちも出来る限りサポートするわ』

「ああ、了解した。ミッションを開始する！」

ゼロは通信を切り、そして廃墟へ向かうべく走る…
イレギュラーの対処、そしてシグマの狙いを知るべく………

- 廃墟

「………ここか、シグマが立てこもっている場所は」

見る限り、誰もいない朽ちたただの廃墟であるが、エアリスの情報を照らし合わせれば間違いなかった
そしてそれは、すぐに証明される…

「きやがったか…！」

ゼロの視線の先、廃墟の中から大量のイレギュラーが現れたのだ

『オレ達ヲ解放シロ…!!』

『オレ達八人間ノ道具ジャナイ!!』

『人間ヲ倒セ!!』

「…………チツ！これは投降させるのは無理みたいだな…」

言うところゼロは背中からゼットセイバーを抜き、臨戦体制をとる

「…………こいつ…！」

『オオオオオオオオッ!!!!』

前列にいたイレギュラー達が、一斉にゼロに襲い掛かる

「…………遅いな」

が、次の瞬間にはそのイレギュラー達の首が宙を舞った

ゼットセイバーで一瞬の内に斬り裂いたのだ

そして、頭部を失ったイレギュラーだったモノの身体が次々と倒れる

同時に次のイレギュラー達が、倒されたイレギュラーの残骸を踏みつけゼロに襲い掛かる

「……………遅いと言っている」

しかし、やはり次の瞬間にはその全てがセイバーによって破壊されるイレギュラーが襲い掛かり、ゼロが破壊する。その繰り返しが続く。やがてイレギュラー達は全滅していた

「フン、イレギュラーはこれで全てか？」

言いつつゼロは通信をする

「こちらゼロ、廃墟を発見。とりあえずイレギュラーは一通り全滅させた。これから廃墟の探索を行う」

『了解、気をつけてねゼロ』

エアリスの返答にわかったと言って通信を切る
そして廃墟の中へと潜入していった…

- 廃墟内部

ゼロはイレギュラーのいなくなった廃墟を進む
そしてある程度進むと、広い部屋に出た

「ハッハッハッハッ……」

すると、不気味な笑い声が部屋に響く……

「……やはりお前か……シグマ！」

「やあ、ゼロ。久しぶりだな……元気にしていたかな？」

「……さあな。少なくとも、お前には負けるだろうな」

「クッククク……その性格は相変わらずのようだな」

「……………」

「まあ、いいさ……今回はお楽しみを用意しておいたよ。ゆっくり楽しみたまえ……ハッハッハッハッ……」

シグマの声が収まると同時に、物陰の暗闇から機械音が鳴る

「お楽しみか……上等だ」

そして暗闇から現れたのは、巨大な戦車型メカニロイドであった……！

第壱話 イレギュラーハンターゼロ（後書き）

次回

「巨大戦車型メカニロイドG - 1978」

そして、全てがゼロになる…

第貳話 イレギュラーハンターゼロ2（前書き）

今回短いかもです

あらすじ的な

イレギュラーの処分の指令を受け、廃墟にやってきたゼロ

イレギュラー達を蹴散らし、廃墟を進んだ先に待っていたものはシグマの不気味な声…

そしてそんなゼロの目の前に、巨大戦車型メカニロイド「G - 1978」が現れたのだった

イレギュラーハンターゼロ2

「巨大戦車型メカニロイドG - 1978」

第貳話 イレギュラーハンターゼロ2

—キュイイン…—

二つの大砲が一つに合わさったような主砲を持つ巨大戦車型メカニロイド「G - 1978」が機械音を響かせ現れる…

しかし、ゼロは臆する事無く言う

「フン…こんなガラクタで、俺を倒せると思っているのか？」

ゼロがそう言ったと同時に、一瞬で間合いを詰めセイバーで斬りつける

……が

—ギイイイ…ン！

「何！？」

何と、G - 1978の装甲は高出力エネルギーの刃を持つゼットセイバーを意図も簡単に受け止めた
装甲がセイバーを弾く音が部屋に響く

—キュイイ…—

更に、その装甲の一部が開き中からマシンガンが現れる

「チッ！」

そしてマシンガンから弾丸が放たれるが、ゼロが素早く反応し離れ

たため直撃は免れた

—ギギ……ヴヴヴヴン—

更にG - 1978は主砲をゼロに向け、エネルギーの充填を開始する

—ヴヴヴ……ピピッ—

そして充填したエネルギーを、複数発に分けて放つ

「くっ！」

ゼロはそれを避けたり、セイバーで斬り裂いたり、セミチャージシヨットで撃ち落とす

—ギギ……—

G - 1978はマシンガンでゼロに向け、距離を詰める…

「…チッ…セラミカルタンの装甲か……これは少し厄介だな……ならば！」

ゼロが再びG - 1978に接近する

同時にG - 1978はマシンガンを放ち迎撃しようとする

「同じ攻撃が通用するか！」

しかしゼロは弾丸を次々と回避し間合いまで入った

「食らえーっ！！」

そしてマシンガンにあらかじめチャージしておいたバスターを放つ
エネルギー弾はマシンガンに着弾し爆発、マシンガンは無惨にも破
壊される

―ギギガッ!?!?!―

マシンガンを破壊され怯むG-1978のAI。その隙をゼロは見
逃さなかった

「おまけだ!」

そう言うとゼロはセイバーを、マシンガンが破壊された装甲の無い
露出した部分に突き刺す

―ガギッ!?!?!―

「ハアアアアアッ!」

そしてゼロは更にセイバーを深く突き刺す

「セヤアアアアアッ!!!」

止めにその状態からG-1978を真つ二つに両断した

―ツ!?!?!―

G-1978はそのまま爆発、大破した

「……………フン」

—ハハハ……素晴らしい……本当に素晴らしいよゼロ……—
再びシグマの声が響く

「さあ、そろそろ出てきたらどうだ？」

—いいだろう……では……—

シグマはそう言うと、一瞬でゼロの前に現れる

「お望み通り、相手をしてあげようではないか……！」

そしてシグマはビームサーベルを取り出し構える

「……こい、シグマ……！」

……遂に、ゼロとシグマの戦いが始まる……！！

第貳話 イレギュラーハンターゼロ2（後書き）

次回

イレギュラーハンターゼロ3
「ZERO VS Σ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0954t/>

しんのすけ戦記ACE ～ゼロから始まる物語～

2011年11月15日14時54分発行